

いなりぎ
稲荷木遺跡

秦野市 No.11 遺跡



1.18区 縄文時代の調査状況



2.18区 縄文時代後期の遺構群



3.縄文時代後期の敷石住居跡



4.縄文時代中期の住居跡 遺物出土状況

● 主な調査成果

縄文時代中期および後期の集落跡を調査しています。後期の集落では、数多くの敷石住居跡が同一の場所に上下に重なり合って造られています。また、その前面には大規模な列石や配石墓群等が展開しています。さらに列石を境にして斜面地を段状に造成している様子も捉えられました。中期集落は、中央部に墓坑が集中的に造られて、住居跡はこの墓域を囲むように分布しています。徐々に集落の全体像が明らかになってきています。

土器・土製品や石器等の遺物も多量に出土しており、特に中期の住居跡からはほぼ完形に近い土器が数多く見つかりました。

- 調査期間 2016年8月1日～調査中
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、奈良・平安、縄文
- 所在地 秦野市戸川
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北2.5kmの台地上

